

志賀原発を 廃炉に! 原告団ニュース 第25号

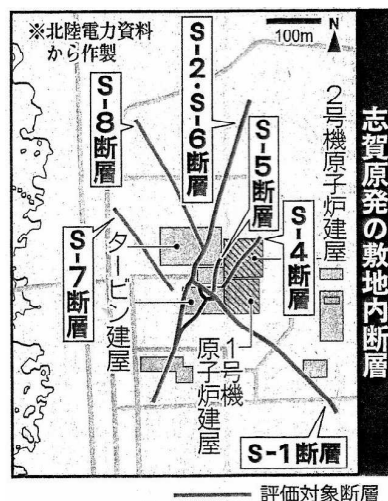
原告団事務局 〒920-0024 金沢市西念3-3-5 フレンドパーク石川5F TEL (076) 261-4657 (発行責任者 堂下健一)

マスコミが報じない2号機適合性審査の実態

原告団事務局

11月21日に開かれた第29回口頭弁論でも、結審への新たな動きはありませんでした。北陸電力は新規規制基準適合性審査の進捗状況を説明する上申書を提出し、加島滋仁裁判長は引続き原子力規制委員会の判断を見守るとしたのです。私たち原告にとっては怒りと無念の年越しです。しかし、北電にとっても審査会合は一步前進二歩後退の繰り返しで、到底「進捗」とは言えない状況です。以下、「進捗偽装」の実態を紹介します。

8月以降の審査会合は10月25日開催の1回のみ。翌日の北國新聞は「陸側6本の活動性否定、北電新データで主張」との見出しで報じています。敷地陸域に10本ある断層のうち6本が評価



対象断層に選定され、今回、ようやく活動性を巡る実質審査に入りました（敷地海岸部の評価対象断層は未確定）。当初、S-2・S-6断層のみの活動性を否定すればOKと考えていた北電にとっては大誤算です。「新データ」を主張したとも報じられています。地層表面をはぎ取ってしまった断層についても活動性を否定するデータを示さなければならなくなったため、北電は当初の上載地層法に加え、新たに鉱物脈法による立証を迫られたのです。

では「新データ」で審査は進捗したのでしょうか？ 鉱物脈法で断層の最新活動年代を測定するには、断層の最新面を正確に把握し、そこにある鉱物脈を正確に分析しなければなりません。北電の手前味噌のデータ解釈に対して、規制庁の審査官からはさらなる資料要求や解釈の矛盾の指摘、過去の全調査の再確認要求など厳しいコメントが続きます。極めつけは規制委の石渡明委員（地質学者）で、採取した粘土鉱物の分析データを「妥当な値」と評価する北電に対して、「（こんなデータが出てきたら）粘土鉱物ではないというのが普通」とし、「ほかのページにも（同様の解釈が）たくさんある」と北電の能力に根底から疑問符をつけました。

さらに注目は、有識者会合から続くS-1断層の評価を巡る規制庁審査官からのコメントです。S-1の活動性を否定する北電に対して、「これぞまさに活断層」というスケッチ図が残された旧A-Bトレンチから原子炉側の地点での「直接的、確実な物証」の提出をあらためて求めたのです。出せるものならとっくの昔に出していた、北電が出せないデータです。

北電は窮地に追い込まれました。訴訟の停滞を打破し、来年こそ反転攻勢の年にしましょう。

【富山訴訟第3回口頭弁論】

- ◇期日 3月4日（水）午後2時～
- ◇会場 富山地裁⇒自治労とやま会館（報告集会）

【金沢訴訟第30回口頭弁論】

- ◇期日 3月5日（木）午後2時～
- ◇会場 金沢地裁⇒北陸会館（報告集会）

11月16日、志賀町で東京新聞記者、^{たかひと}榎原崇仁氏による講演会があった。

終わらないフクシマ—榎原さんの講演を聴いて

原告 浅田 眞理子

榎原さんには金沢でも何度か取材していただいたが、特報部に異動されてからは伝えてもらいたいと思っていることを実にすばらしいタイミングで何度も記事にしてくださり、深く深く感謝している。特報部からはずれた時も自費で取材を続けていたことを今回のお話で知り、本当に頭が下がる思いでいっぱいになった。

まず、福島の状態をたくさんの映像で説明していただき、その後に時の経過と共に福島で起きたこととお話しされた。すぐに金沢に避難してきた私は実際には体験していないけれど、福島に起きたことが一挙に蘇ってきた。

山下俊一先生らによる放射能安全キャンペーン、人びとの分断、自死された方の話や放射線基準の引き上げ、避難指示に始まる納得のいかない福島県や政府の事故対応の数々。そしてそれらに対する抗議。それは8年9ヶ月たった今も続いている。哀しいかなこれからも続くだろう。

福島では「もう原発はいらない」は当たり前の感覚だが、北陸の方々、特に立地している志



「福島で起ったことは石川でも起る」と語る榎原さん(11月16日志賀町文化ホール)

賀町の方はこの話を聴いてどのように感じたのだろう。

今福島は復興に向けて突っ走っているように思う。特に若者の意気込みには頭が下がる。後ろめたさを感じる。心配なのはもう放射線の影響など眼中にないように思えることだ。文部科学省の「放射線副読本」や福島県の小学5年生が必ず訪れることになっているコミュタン福島(*)の展示を見る限り、放射線教育が適切に行われているようには思えない。何より放射線の問題を口にすることができない雰囲気こそ問題だと思う。福島は未だ原発事故の渦中にある。

二度と原発事故を起こさないためにも、榎原さんには今後も福島の記事を書き続けていただきたい。ご活躍を期待している。

注(*)コミュタン福島…「環境創造センター」の中にある交流棟の愛称。原発事故の発生・経過や放射線の知識を学べるようになっている。「環境創造センター」は、原発事故による放射性物質で汚染された環境を早急に回復し、安心して暮らせる環境を創造する目的で三春町に建設された。

年末カンパのお願い

「フォッホッホ、おぬしもワルよのう」小判入りの菓子折を前にして、時代がかったセリフが聞こえてきそうです。(これは本当は悪代官が言うんですが…)

富山訴訟では、北陸電力にも同様の事実がなかったのかどうか、釈明を求めています。まさか「儀礼的な範囲」とは50万円のスーツ仕立券ではないでしょうね。

とまれ、原発マネーの闇をなくすには「廃炉」しかありません。

今年もみなさんの年末カンパで原告団の活動を支えてください。金額はいくらでも結構です。お手数ですが、同封の「払込通知票」で郵便局から送金をお願いします。